

わがくがき

広報

Public Relations

10月3日
収穫の喜びを実感
小笠北小5年生が稲刈りを体験

Special
Edition

農に吹く新しい風

November
2013
Vol.191

11

私たちが普段当たり前のように目にする田や畑。
この農地が見せる四季折々の美しい景観は、代々
伝わる日本の原風景。かけがえのない財産です。
そして、収穫に感謝するお祭りなど、私たちの生
活に根付いた風土や文化の源ともなっています。
そんな多様な役割を果たしてきた農地を耕作する
農家数は年々減少し続け、市内にも耕作放棄地が
増加しています。
しかし、ピンチをチャンスとばかりに農業の新た
な可能性にチャレンジする新規就農者など、今、
菊川の農業には新しい風が吹き込んでいます。
この風を追い風にできるかどうかは私たち次第。
今回の特集では、これからの農業について考えます。

問い合わせ

農林課農業振興係(☎35-0938)

農に吹く新しい風

Special
Edition

The new wind blown on agriculture

農家数は3分の1に減少

大切な農地を守り、日本の食を支えてきた農業は今、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など、幾多の難問を抱えています。そして、菊川市も決して例外ではありません。

昭和50年、全国の農業就業人口はおよそ791万人。うち65歳以上が21%であったものが、平成25年現在はおよそ239万人で65歳以上が61%。この40年間で農家は3分の1に減少し、高齢者が占める割合は3倍に増加したことになります。つまり、新規就農者が非常に少なく、同じ人がずっと農業を続けてきたことが考えられます。

その結果、農地もピークだった昭和36年にはおよそ609万haでしたが、平成20年には463万haまで減少。耕作放棄地は増え続けています。

農業は、命の源となる「食」を育む大切な産業です。もし、農業をする人が減少し続けたら、この先10年、20年、そして50年先の日本・菊川の食、緑豊かな美しい田園風景はどうなってしまうのでしょうか。

農業がこれからも成り立っていくためには、後継者・新規就農者の存在が不可欠。菊川農業の未来を拓く若者が、「農業で生きていこう」と決意するためには何が必要か。行政や農業関係者だけでなく、私たち一人ひとりが今、真剣に考え取り組むべき課題です。



菊川市の農産物の生産状況

(収穫量上位5作物 飼料作物を除く)

	作付面積	収穫量
茶	1,670ha	19,800 t
水 稲	793ha	4,190 t
トマト	26ha	1,719 t
レタス	56ha	1,655 t
ばれいしょ	17ha	235 t

【出典】農林水産省HP 統計情報 市町村の姿グラフで見る農林水産業

▲写真は農業生産法人「㈱やさいの樹」の皆さん。特集6ページに登場。

「農業は厳しい」と逆風が吹く今の時代。
しかし、ピンチをチャンスととらえ芽キャベツ
という新たな価値を確立することで、菊川の農
業を支え守ろうとする農家があります。
森下兼雄さんもそんな一人です。



芽キャベツの生育状
況を確認する森下さ
ん。全国シェアの9
割を占める静岡の芽
キャベツはこれから
最盛期を迎えます。

苦労する分やりがいもある
でもこんな時代だからこそ
必ずチャンスもあるし
挑戦も続けていく

芽キャベツ栽培の先駆者

「農業は子どもの頃から生
活の一部で学校を卒業したら
当然農家を継ぐと思っていた
した」。川西で農業を営む森
下兼雄さんは、長年栽培して
きたお茶（2.5ha）、お米
（3.5ha）に加え、10年ほ
ど前から芽キャベツ（90a）
を栽培しています。「お茶と
お米の収穫がない時期に、何
か栽培できるものはないか」
と考えていたときに、収穫時
期が農閑期に最も適していた
芽キャベツに出会いました。

芽キャベツはベルギーが原
産地で、日本には明治元年に
伝わりました。終戦直後まで
神奈川県や長野県、兵庫県が
主な産地でしたが、現在は全
国シェアの9割を静岡県が占
めています。森下さんが栽培
を始めた当時は、市内で芽キ
ャベツを栽培している人は15
人ほどでしたが、収穫時期が
11月中旬から3月までの農閑
期であることや、冬でも比較

長所は需要の安定性

「芽キャベツの良いところ
は需要が安定しているところ
ろ」と森下さん。店頭では10
個前後入りが300円ほどで
売られ、主に東京、名古屋、
大阪方面に出荷されています。
最近では、テレビや新聞、雑
誌などで取り上げられる機会
が増えましたが、市内でもま
だ知らない人がたくさんいま
す。JA遠州夢咲芽キャベツ
委員会の委員長でもある森下
さんは、学校給食などでの地
産地消の推進や知名度アップ
に継続的に取り組んでいます。



かみ お
森下兼雄 さん
(川西)

的暖かい当地の気候が栽培に
向いているなどの理由から、
JA遠州夢咲管内では現在、
菊川市を中心におよそ60人の
農家が栽培に取り組んでいます。

農業の未来を 地域全体で守るには



菊川市農業委員会
平川幸治 会長（長池）

法律が農地を農地として守る

農地法が平成21年に改正されてから、現在の農地はできる限り農地として活用することとされ、宅地などへの転用が難しくなっています。全ては、日本の食料自給率を上げるため。国内で食べるものは国内で生産していくよう法律も変わってきています。

しかし、農地を残しても、農家が減ってきてしまうと生かされずに何も生み出さない耕作放棄地となってしまう。農業委員会では、毎年、農地利用状況調査を実施していますが、耕作放棄地は年々増え続けているのが現状です。

農家が協力し合って農地を守る

農地を守り、そこから農産物を生み出していくためには、いくつかの方法があります。一つは、地元農家で協力し合い、各地域の農地を守っていくことです。これは、昔から続けてきた方法ですが、出作や入作が多くなってきている昨今では、再度見直さなければならないと思います。

農地を生かすことで守る

若手農業者への農地の流動も一つの方法です。近年、農家人口は減少していますが、新規に農業を始める若者は増えています。個人農家で親元から就農する人はもちろん、サラリーマンを辞めて就農する人も少なくありません。また、法人を立ち上げ、農業を一つの会社として運営しているいわゆる農業生産法人がここ数年、いくつかの地域に入って耕作をしています。農業生産法人の代表者には市外出身者も多く、農地を借りることに苦労されていると聞きます。耕作者が少なくなっている地域では、このような法人農家に農地を貸していくのも、耕作放棄地を増やさないための一つの方法と考えています。

地域全体が現状を知ること

最も大切なのは、現状を知ることです。「地域の土地がどのような人によって耕作されているのか」、これを知るだけで地域農業としてのコミュニケーションが生まれ、農業への関心を高めることができます。今後、農地をどう有効に活用していくか見極めることが大事であり、地域一体となって考えていくことが、菊川の景観を守り、さらには私たちの生活を守ることにもつながっていくのではないのでしょうか。

農 と 守 る

新規導入作物の定着化・ブランド化を
追めることで、既存の作物をも支え守る

ピンチこそ最大のチャンス
そんな森下さんにこれからの農業について尋ねました。
「農業は今、本当に厳しい時代。周りも高齢の農家が多く、跡継ぎがいらない人も多い。このままでは、あと数年すれば多くの農地が荒廃してしまうかもしれない。しかし、こんな時だからこそチャンスもあると思います。農家が少なくなれば土地も借りやすくなるし、農業は自分がやった分だけ成果が出ます。現に努力と工夫で安定した収入を得ている農家がいるのも事実で

す。『他に仕事がないから』と軽い気持ちでやっていけるほど甘いものではありませんが、『農業で生きていこう』と覚悟を決め、時代の変化に合わせて新しいことに挑戦し続ける限り道は開けます。今は芽キャベツの経営が軌道に乗っていますが、いつまで続くかは誰にもわかりません。これにこだわるのではなく、駄目なら新しいものに挑戦するつもりですし、そんな気持ちを持った若者が、農業を志してくれんことを願っています」と、農業に吹く新しい風への期待を語ってくれました。

農業従事者が減少し、厳しい状況が続く菊川の農業。

しかし、こんな時代にあって、わざわざ他地域から移り住み、新規就農する挑戦者たちがいます。

農環境として、菊川の何が魅力なのでしょう。

「感動があって、カッコよくて、稼げる」

そんなスタイルを実践する人たちが、菊川の農業に新たな風を吹き込んでいます。



2つの感動が 農業を続ける原動力

challenger

1

(株)やさいの樹^き 代表取締役社長

塚本佳子 さん

Profile つかもと けいこ (東平尾)

1971年神奈川県生まれ。日本大学農学部拓殖学科に進学。卒業後は青年海外協力隊として2度にわたる海外での農業指導や鳥取大学乾燥研究センター修士課程、沖縄県宮古島の農業生産法人などで農業を学ぶ。群馬県の農業生産法人(株)野菜くらぶが展開する独立支援システムで3年間の研修を経て、2008年に農業生産法人「(株)やさいの樹」設立。

非農家から野菜のプロへ

「同じ作物を栽培していても、1年として同じ年はない。毎日、新鮮な気持ちで野菜と向き合っています」。株式会社「やさいの樹」代表の塚本佳子さんは、内田地区を中心にレタスやキャベツ、トウモロコシ、オクラなどを栽培しています。

神奈川県公務員家庭で育った塚本さんは学生の頃から国際貢献が夢で、南米のエクアドルやアフリカのザンビアでの農業指導などを行いました。

その後、「まずは自分が農業で生計を立てなければ」と、(株)野菜くらぶで3年間研修を積み、平成20年に(株)やさいの樹を設立しました。

最初は苦労の連続で、知らない土地での耕作地探しが進まなかったり、1カ月の労働が400時間を超えたり、夜中に農作業をしていて警察に不審者と間違えられたりしたこともありまし

農業生産法人は欠かせない担い手



菊川市農業振興会
橋本輝夫^{てるお} 会長
(中嶺田)

私が農業委員を受け持つ嶺田地区は、担い手不足や宅地化などの影響もあり、近年耕作放棄地が増加していました。そんな時、ある農業生産法人から農地を集約して耕作したいと相談がありました。当初、地域に耕作放棄地は増やしたく

ないと思う反面、農業生産法人という新しい形の農業者が、地域で耕作することへの不安もあり、本当に紹介して良いものかと葛藤がありました。

地元の皆さんと話し合いを続けた結果、関係者との権利設定も進み、耕作放棄地を解消することができました。また、地元の皆さんの反応も、私が心配するようなこともなく、好意的なものがほとんどでした。農業生産法人のような新しい農業者の存在は、今後の地域農業の担い手として、農業振興や農地を守っていく存在として必要だと感じています。

た。それでも、飽くなき向上心で順調に耕作地を増やすことができ、売り上げも安定。今では社員4人、外国人実習生6人を雇用しています。

「どんなに大変でも、無事に収穫ができ、その野菜を『おいしい』と言ってもらえると、それまでの苦労を忘れさせな気持ちになります」収穫の喜びと消費者からの温かい言葉。二つの感動が農業を続ける大きな力になっています。

そして「大げさに言うと、日本の皆さんの食を守っているという気持ちに充実感につながるんです。これは何物にも代えがたいです」とにっこり。そんな塚本さんは、菊川のこれからの農業についてこう話してくれました「温暖な気候で、農家の皆さんが守ってきた優良な農地が数多く残っている菊川は農業をするのに恵まれた環境。地元の若い皆さんと一緒に、地域を活性化していけたらと思っています」。



農に挑む

作物も人も大切に育てる

「『鈴生』という社名は、人も作物も『すずなり』に実ってくれることを願って名付けました」と話すのは、静岡市に本社を置く株式会社「鈴生」代表の鈴木貴博さん。おいしさを求めたこだわりの野菜作り、農業後継者の育成に情熱を注いでいます。

鈴生は近年、市内の耕作放棄地を一括で借り上げ優良農地に整備。嶺田地区や加茂地区を中心にレタスや枝豆を生産しています。

農業を学びたいという若者の受け入れに積極的な鈴生では現在、20代から40代まで27人が、鈴木さんの下で野菜作りに汗を流しています。

取材のために農場を訪れた時は、ユニフォーム（Tシャツ）を着た若者が揃って作業中。自ら農業で生きていくと決め、夢をかけて頑張っている姿は

とてもカッコいい光景でした。

鈴木さんが考える『おいしさを求めて』という理念は、種まきから消費者に渡るまで、一切手を抜かず一生懸命に野菜作りに励むこと。「共通の意識を持った仲間をもっと増やしていきたい。農業は決して楽なものではありませんが、一人ではダメな場合でも、夢を持った仲間となら頑張ることができると思います。そして収穫など苦労が報われた時の喜びは格別ですよ」と、人づくりの大切さを強調します。

「たくさんさんの仲間と、同じ目標に向かって汗を流す。おいしい野菜で多くの人を笑顔にできる。そして何より安定的な収入を得る。農業を活力のある産業に、魅力にあふれたカッコいい職業にしていくために、もっと努力を重ねていきたいです」と、農業にかける意気込みを熱く語る鈴木さんに、多くの若者が引き付けられています。

鈴生で農業を学び、菊川で独立した二人の新規就農者に話を聞きました



鈴木 啓 さん
(白岩東)

「自分の責任でできる仕事をしたい」と考え、再就職先として農業を選びました。日々の積み重ねや経験で、課題を一つ一つクリアしていくという点が、農業の難しさであり一番の魅力だと感じています。まず今は、自分の技術を高めたいです。

もともと家庭菜園が趣味で、自分の会社を持ちたいと考えていたこともあり、前職の退職をきっかけに農業の道へ進みました。農業は自分のペースで仕事ができ、努力すれば作物は応えてくれます。まずは、安定した収入を得ることを目標に頑張ります。



板野真和 さん
(池村)

夢を持って仲間と頑張る姿がカッコいい

challenger 2 (株)鈴生 代表取締役社長 鈴木貴博 さん

Profile すずき よしひろ (静岡市)

1976年静岡市生まれ。九州東海大学工学部を卒業後、山梨県の農業生産法人(有)イズミ農園で2年間の農業研修を受け、両親が経営する農園に就農。

2008年に農業生産法人「(株)鈴生」を設立。現在、静岡市や焼津市、菊川市などで野菜や果物を生産するほか、農産物の販売なども手掛ける。



経営感覚を持った 攻めの農業

challenger

3

(株)ソイルパッション代表取締役社長

深川知久 さん

Profile ふかがわ ともひさ (吉沢)

1978年富山県生まれ。北海道大学卒業後、イリノイ大学客員研究員として研究に没頭。2004年に北海道大学院農学研究科を終了後は大手IT企業に就職。2007年3月に退職し、群馬県の農業生産法人(株)野菜くらぶが展開する独立支援システムにて就農。研修期間を経て、2009年に農業生産法人(株)ソイルパッション」を設立。



IT企業から農家へ

「最初は本当に食べていけないのか不安でいっぱいでした。今は農業に飛び込んで本当に良かったと思います」株式会社「ソイルパッション」代表の深川知久さんは、河城地区を中心にレタスや枝豆を生産しています。

大学卒業後、大手IT企業に就職した深川さん。農業IT研修で出会った「(株)野菜くらぶ」澤浦彰治代表の「農業でもサラリーマン以上の収入を得て、ちゃんと子どもを大学に行かせられる。我慢の農業でなく、攻めの農業を目指そう」という一言に背中を押され、就農を決めたそうです。野菜くらぶで2年間研修した後、平成21年に(株)ソイルパッションを設立し、独立しました。

「これまでの農業は、売り値の不安定、天候による変動リスク、社会保障の不備など、マイナスイメージが付きまといがち。まずは、このイメージを払拭したいです」と、さまざまな取り組みを実践しています。

「何よりも安定的な収入があるって成り立つ」と話す深川さん。「採算価格で購入してくれるお客さんがいるからこそ計画的な

栽培ができるんです」と、契約栽培という形で売り値を安定させています。一方、「買い手が決まっている以上、望まれる生産量と品質を確保していかなくてはいけない」と、信頼を得るための努力を怠りません。

また、「しっかりと計画があるからこそ必要な人員を雇用できる」と、5カ年計画や年間販売計画、損益計算書、キャッシュフローを丁寧に分析するなど、経営感覚の重要性を強調します。経営の効率化にも力を入れ、できるだけ労力や経費をかけない方法を工夫しています。「最初はレタスだけでしたが、同じ資機材で栽培できるサニーレタスやグリーンリーフの栽培も始めました。夏場の枝豆やトウモロコシも、レタスのトンネル資材を使って栽培していますし、収穫後の木を畑に帰すことで良い有機物補給になります」と、無駄な手間や経費がかららない作物を選択しています。

深川さんは、「まずはお客さんに喜んでもらえる野菜を作ることが第一。結果として相応の収入を得ることができ、自分だけでなく、従業員にもきちんとした給料を支払うことができます」と、笑顔で語ってくれました。

土地を提供している
長谷川良一 さん
(段平尾)



最初、土地を貸してほしいと言われたときは「どこの誰かも分からない人に貸して大丈夫か」と、正直不安もありました。しかし今、一生懸命に働く彼らの姿を見ると、本当に貸して良かったなと思います。

私は、かつて多くの税金が投入されて整備された農地が有効に活用されないのは一番の問題だと思っています。ですから、健康でやる気のある若者には、思う存分働いてもらいたいし、私も応援していきたいです。

パートとして働く
岡本りよ さん
(和田)



私の家は兼業農家。お茶とお米を作っていて、枝豆やレタスが忙しい時期にパートとしてソイルパッションで働いています。ここでは、パートの人たちや社員、実習生など、いろいろな人と話をする機会があって楽しいです。なんだか普通の会社に勤めているような感覚です。また、一緒に働いていて感じるの、若い皆さんが本当に頑張っているということ。パートではなく、一人の地域の人間としても、応援しています。



生産者と消費者をつなげる可能性

農業の大きな問題は「需給のミスマッチ」。ここ菊川で起業した加藤さんは、ITシステム開発者、主婦の視点から消費者の声をつかみビジネスチャンスを生み出します。

(株)エムスクエア・ラボ 代表取締役

加藤 百合子 さん

Profile かとう ゆりこ (潮海寺中)

1974年千葉県生まれ。東大農学部で農業システムの研究に携わり、英国クランフィールド大学で修士号を取得。その後、米航空宇宙局(NASA)のプロジェクトに参画。2000年に帰国。2001年、結婚を機に菊川へ移住。産業用機械の研究開発に7年ほど従事しながら2度の出産を経験。2009年10月エムスクエア・ラボを設立。2012年「ベジプロバイダー事業」で日本政策投資銀行第1回女性新ビジネスプランコンペティション大賞を受賞。

見直される農業の価値

「農業を、楽しくてもうかる産業にしたい」。平成21年10月に「エムスクエア・ラボ」を設立し、農業事業に参入しました。およそ4年間、さまざまな角度から農業を見つめてきて感じることは、農業は社会の基盤、教育や文化、健康など、人間の生活全てに深く関わっているということです。これは、単に農作物の生産という役割だけでなく、農作業や農村景観などが、他にもさまざまな役割を担っているからです。さらに、農業はその価値が近年、あらためて見直されてきています。

課題は需給のミスマッチ

問題が山積している農業ですが、私が感じる最も大きな問題は「需給のミスマッチ」です。「文化は異文化との交流がなくなる時に減じる」と聞いたことがあります。農業も他産業や社会から断絶されているように感じました。具体的には、商社や小売などの購買者が求めるものとは違う品種を生産者が作り続けたり、同じ作物を作り過ぎて

価格が下落してしまったりするような状況です。情報が自由に行き来すれば、もっと業界全体がうまく流れるのではないかと考え、現在の流通のあり方を見直し、生産者も購買者も元気になる新しい流通システム「ベジプロバイダー」を開発しました。

これは、生産者の営業代行、購買者の現場管理代行、マーケティングなどを行うシステムです。ITを活用していますが、最も重要なのは「人と人のつながり」。私たちと生産者、購買者の信頼関係がなくては成り立ちません。生産者と購買者が信頼関係でつながり、情報を共有することで、需給のミスマッチを無くしていけると考えています。



カメラ、温度、湿度、日射などの各種センサを搭載し、農業の見える化を助ける「フィールドサーバ」

新しい農業を菊川から

農業の6次産業化や農工商連携の推進など、農業は今、成長産業として注目を集めています。現在、私たちが取り組んでいるのは「農医連携」。農家と医療機関が連携して、健康的でおいしい商品の開発やセミナーの開催などを進めています。また、私は2人の子を持つ母親ですので、今後は教育現場と連携した「農教連携」なども取り組んでいきたいと考えています。

一面に広がる茶園や水田など、菊川の景観は本当に美しいと思います。この、菊川の良さを守り、生かしていくためには、農家や企業、行政などが連携していくことが必要です。そして、農業を軸にさまざまな産業が結びつくことで、今までなかった新しい事業が生まれる可能性があります。さらに、新しい事業が多く、雇用を生み、「農業で若者も高齢者もみんながハッピーになれる」「農業を中心にまち全体が元気になるっていい」。そんな、新しい農業のカタチを、菊川から発信できたら素晴らしいですし、その可能性を秘めていると思います。

50年先の

「菊川の農業」を創り出す

農業に意欲を持てる 環境づくりが急務

生きる源である「食」の未来。まちの発展を支えてきた基幹産業である「農業の未来」を考えるために始めた今回の特集。取材を通じて多くの農家の皆さんと出会いました。

31歳のとき、水稲と茶の農家である実家に就農した黒田学さん。大学卒業後、8年ほど商社と食品メーカーに勤めていましたが、『いずれは実家を継ぐ』という使命感もあり、農家への転身を決意。サラリーマン時代の経験を生かし、農業に取り組んでいます。

現在、JA青年部小笠支部長として若手農家からの情報発信にも力を注いでいる黒田さん。『まずは、私たちのような若い農家が『農業を続けていこう』と意欲を持てる環境づくりが急

務。個人農家や農業生産法人など経営形態はさまざまですが、『菊川の農業を活性化したい』という思いはみんな同じです。互いに意見を出し合うなど横のつながりを強くし、若手農家から現場の声を発信していきたい』と意欲を見せます。

未来を担う子どもたちにこそ農業教育を

黒田さんは今年、JA青年部の一員として小笠北小の5年生に米作りを指導しました。田植えや稲刈りなど、田んぼで作業する子どもたちの生き生きとした表情を見て、心を新たにしたいと黒田さんは言います。「農業は、マイナスイメージばかりではありません。プラスもあれば誇りもあります。そんな私たちの姿を見せることで、子どもたちが『将来農業をやりたい』って、

農家の実情に即した支援を

農家の高齢化や後継者不足など、農地を守っていくことが年々難しくなっています。一度休耕してしまった農地は、そのまま耕作放棄地になってしまう場合が多く、次の作物が定着するまでには長い時間がかかります。国や県、市では、補助金を出すなど耕作放棄地の解消に努めていますが、復元には多大な労力とお金がかかります。全く手を付けられなくなる前に借り手を見つけないと、借り手が見つかるまでの保全管理なども、農地を守るための大切な役割です。

本市の農業は、地元農家の共同経営や認定農業者を中心とする大規模農家、個人農家、兼業農家。また、農業参入企業や農業生産法人など経営体は多様です。今後も、地域の実情に即した各経営体の総体的な底上げを支援することが重要と考えています。国の動向などに注視しながら、情報収集と提供に努めていきます。また、新規就農者の相談なども随時受け付けていますので、ご利用ください。



菊川市農林課
主任 杉山 勝 課長



JA遠州夢咲青年部 小笠支部部長 黒田 学 さん

Profile くらだ まなぶ (東組)

1979年菊川市下平川生まれ。青年海外協力隊に興味を持ち東京農業大学国際食糧情報学部では、開発途上国の農業発展について研究。卒業後は、商社と食品メーカーにおよそ8年間勤務。2011年に退職し、水稻とお茶を栽培する実家に就農。農業以外でも菊川市青年団団長を務めるなど地域づくりに貢献。現在、JA遠州夢咲青年部小笠支部長として若手農家からの情報発信などに力を注いでいる。栽培作物は水稻4.7ha、茶30a、サツマイモ30aなど。

50年先を見据えた農業を

言ってくれるようになったら嬉しいですよ」と笑顔を見せました。農業を体験した子どもたちは一様に、作物を作り出す苦労、やりがい、収穫する喜びを肌で感じ、日々の食卓に感謝の気持ちを持つことができるようになると思います。飽食の時代といわれ、スーパーに行けば何でも手軽に手に入る今の時代だからこそ、「自分で食べるものを自分で作る」という基本に立ち返って安全安心な食を考へる」ことができる貴重な学びの場となっています。

森下兼雄さんのように、伝統ある農業を守り伝える人がいます。塚本佳子さん、深川知久さん

私たちのように、他地域から移り住み、新たな挑戦で農業を盛り立てようとする人がいます。加藤百合子さんが言うように、私たち消費者のニーズを直接農家に届け、「必要なものを、必要とする人が、必要な時に手に入る」仕組みづくりも加速していく可能性もあります。これから先、生産や流通、販売など、直接農業に携わる人のみならず、私たち消費者の一人ひとりだって、菊川の農業を守り育てる担い手です。みんなで守り、みんなで育てる。そういった意識を一人ひとりが持ち、日々の食卓に感謝の気持ちで向かいたいものです。それが50年先を見据えた「菊川の農業」への第一歩となるはず。



稲刈りを終えた小笠北小5年生と黒田さん(10月3日、小笠北小近くの水田にて)



1_茶園に囲まれたのどかな風景の中に佇む、西欧料理サヴァカ 2_落ち着いた雰囲気店内 3_食育事業の一環として、園児に枝豆ポタージュの作り方を伝授(9月26日西方保育園)



地元の良質な食材を活かし
この地域ならではの料理を提供したい

山口 祐之さん まさはる

西欧料理サヴァカオーナーシェフ

菊川市の北東、緑豊かな沢水加地区に佇む、隠れた名店「西欧料理サヴァカ」。木の温もりを感じさせる落ち着いた店内に入ると、オーナーシェフの山口祐之さんが笑顔で迎えてくれます。祐之さんは高校卒業後、大阪の老舗レストランで10年間、フランス料理を学びました。在籍中には本場フランスでの研修を経験。その後、浜名湖ロイヤルホテルや、関西随一のレストラン激戦区、神戸「ルセット」の※スーシェフとして腕を振るってきました。いずれは、大阪で自分のお店を持ちたいと考えていた祐之さん。しかし、「父親が住む菊川に年数回訪れるうちに、この地が本当に食材に恵まれていることに気付きました。新鮮な野菜、遠州夢咲牛などの上質な肉類、御前崎港の魚介類、そして各種野鳥をはじめとするジビエ類。素材が豊富なこの場所、出店しようと考えたのです」と、平成18年にサヴァカを開店しました。開店以来、市内外から多くのお客様が来店。ランチ、ディナーとも満席の状態が続きました。しかし祐之さんは、この地域のお客様が求める料理や味をさらに追求し、試行錯誤の毎日を送っていたそうです。そして、「いろいろと挑戦して気付いたことは、季節の

移ろいによって変化していく地元食材の良さを引き出すことの大切さでした」と、現在のスタイルに辿り着きました。「開店から7年目までは、昼も夜も仕事で忙しく、地元の皆さんと接する機会がなかなかありませんでした」と話す祐之さん。最近では、地域に住む人と触れ合う機会が増えてきたそうです。「菊川には、あたたかく、素直な人が本当に多い。私も肩肘を張らず自然に接することができ、居心地がいいです」と微笑みます。また近年は、ふじのくに食の都仕事人として、地元食材の魅力を発信する活動を続けるほか、市の食育事業や地域活動などにも積極的に参加しています。祐之さんは、「自分が今まで得た知識を社会にフィードバックしていきたい。また活動を通して、地域の皆さんとより結びついていけたら嬉しいです」と話します。「アンテナを高く張り、夢を持ち続けていきたい」と意欲を見せる祐之さん。「将来は宿泊施設付きレストランを開店したい」「市民農園を併設し、お客様自身が収穫した野菜を料理して提供したい」と語るように、これからも多くの人を幸せにする料理を提供してくれることでしょう。

(堤) 青森県出身。料理番組に携わっていた父親の影響で、料理に興味を持つ。主に関西で料理の経験を積み、平成18年に菊川市沢水加に西欧料理サヴァカを開店。現在、妻正美さん、娘さん、息子さんとの4人暮らし。

※スーシェフ…総料理長を直接補佐する2番目の管理者

Q Quiz

広報

当てよう菊川の特産品

No.56

菊川茶の魅力を全国に発信する菊川茶娘。
今年、新たに選ばれた10人は第何代目でしょうか？



今月の一品

お茶羊羹・お茶ジャムセット

【菊川ブランド認定賞品】

提供：中嶋茶店
菊川市加茂350
☎(FAX)35-2572
協力：菊川市観光協会

正解者の中から1人に「今月の一品」が当たります。
ハガキに、答えとあなたの住所・氏名・年齢・電話番号の
ほか、身近なできごとや広報を読んで感じたことなどを書
き添えて、秘書広報課までお送りください。

■あて先

〒439-8650 菊川市堀之内61番地 菊川市役所秘書広報課

■締め切り

平成25年11月29日（金）当日消印有効

■結果

9月号の広報クイズには8人の応募があり、全員正解。
答えは「えんてつ通り」でした。



黒田 陽太くん
(2歳)
(赤土下)

みんなを笑顔にさせる、
明るい子になってね ^^

すくすく アイドル

no.53

0歳から3歳くらいまでの子どもの
写真を募集しています。この機会
に、お子さんを「広報紙デビュー」
させてみませんか。

☎ 秘書広報課秘書広報係
☎ 35-0924 メール: hishokoho
@city.kikugawa.shizuoka.jp

前澤 陸登くん (4歳)

結菜ちゃん(11カ月)
(東嶺田)



生まれて初めてのお祭り参加
楽しかったね!!
お兄ちゃんはお祭り大好きっ子です♪

明日のレシピ

Recipe

054

体に優しい家庭料理。それが明日のレシピ
おいしい食事は明日の活力につながります。

きのこことジャガイモのガレット

西欧料理「サヴァカ」のシェフが考案!
プロのレシピをご家庭でも

材料 (4人分)

じゃがいも 大(200g)	2個	ナツメグ	適量
きのこ(お好みの種類)	100g	バター	適量
白葱	1/2本	サラダ油	適量
塩	適量	溶けるチーズ	適量
こしょう	適量		



今回の料理人

西欧料理
「サヴァカ」
山口祐之さん

今回のレシピは、西欧料理「サヴァカ」の公式HPにて
写真付きで詳しく紹介しています。

ぜひご覧ください。

HP <http://cavak.jp/>



〇作り方

- ①きのこはほぐしてバターとサラダ油で炒める。白葱は3mm幅に
切り、同様に炒めておく。
- ②じゃがいもは皮をむき2〜3mm幅にスライスし、さらに棒状に
切る。軽く、塩、こしょうをし、しばらく置く。軽く絞る水気を
切っておく。ナツメグを加える。
- ③中火のフライパンにバターとサラダ油を敷く。②の1/2量を敷
きつめ、中央に①を乗せ、チーズを上にかける。残りの1/2の
じゃがいもを上を覆うようにかぶせる。
- ④じゃがいもの下面に色がついたら、ひっくり返し反対側も焼く。

【ポイント】

油が少ないと焦げ付きます。フライパンの縁が常に油の泡で囲ま
れるようにします。



深蒸し菊川茶で **おもてなし**

5代目菊川茶娘決定

5代目となる菊川茶娘10人が決定しました。

茶娘の皆さんはこれから2年間、菊川茶の消費拡大を図るため、深蒸し菊川茶の魅力を全国にPRしていきます。

問い合わせ 市茶業協会（茶業振興課内 ☎35-0954）



深蒸し茶発祥の地菊川の顔
5代目茶娘10人が決定

5代目菊川茶娘コンテスト
が9月29日、町部地区センタ
ーで開かれました。

菊川茶のPRや消費拡大の
ために市茶業協会が主催。県
内各地から応募があり、書類
審査を通過した28人が、審査
会に望みました。

審査会では、自己PRを兼
ねた私服審査と質疑応答を兼
ねた茶娘衣装審査を実施。質
疑応答では、参加者が応募の
動機や抱負、菊川茶への思い
などを、太田順一市長をはじめ
とする審査員にアピールし
ました。

審査の結果、5代目菊川茶
娘10人が決定し、賞金や花束、
記念品が贈られました。

茶娘の皆さんはこれから2
年間、市内外で開催されるさ
まざまなイベントに参加。ま
た、県内外で行われるお茶の
PR活動に参加するなど、深
蒸し菊川茶の魅力を全国に発
信していただきます。

Profile — 5代目茶娘の皆さんを紹介します



近藤 麻由
MAYU KONDOU

海外の皆さんにも
菊川茶をPRします

出身(自治会) 新道
趣味・特技 高校野球観戦・中国語
茶娘としての抱負
いつも笑顔で、特技の語学を生かして、日本だけでなく海外の皆さんにも菊川茶をPRしていきたいです。



河村 あゆみ
AYUMI KAWAMURA

深蒸し菊川茶の知識を高め
心を込めてお茶を淹れます

出身(自治会) 土橋
趣味・特技 パン・料理教室へ通うこと
毎朝のラジオ体操・野菜ソムリエ
茶娘としての抱負
深蒸し菊川茶の知識を高め、これから出会う皆さんに喜んでいただけるよう、心を込めてお茶を淹れたいと思います。



長谷川 涼
RYOU HASEGAWA

元気と笑顔で
菊川茶をPRします

出身(自治会) 焼津市
趣味・特技 サッカー観戦
茶娘としての抱負
一人でも多くの皆さんと触れ合い、持ち前の元気で菊川茶をPRし、美味しく飲んでいただけるよう頑張ります。



八木 里恵
RIE YAGI

深蒸し菊川茶の美味しさを
海外にも伝えたい

出身(自治会) 掛川市
趣味・特技 旅行・英語
茶娘としての抱負
深蒸し菊川茶の美味しさを国内だけでなく、海外の皆さんにも伝えられるよう、笑顔で頑張ります。



原島 聡子
SATOKO HARASHIMA

お茶を通じてたくさんの
人とご縁を結びたい

出身(自治会) 西袋
趣味・特技 百人一首かるた・温泉めぐり・
ヴィオラ演奏
茶娘としての抱負
引っ越して来てまだ日の浅い、菊川初心者ですが、お茶を通じてたくさんの人とご縁を結んでいけたらと思います。



内山 魅夢
MIMU UCHIYAMA

たくさんの人に美味しい
菊川茶をPRします

出身(自治会) 浜松市
趣味・特技 スノーボード・マリンスポーツ
茶娘としての抱負
5代目菊川茶娘になれ、とてもうれしく思います。たくさんの人に美味しい菊川茶を知ってもらえたらと思います。



鈴木 智子
SATOKO SUZUKI

笑顔と菊川茶の美味しさで
みんなを幸せに

出身(自治会) 白岩東
趣味・特技 子どもと楽しく過ごすこと・
ショッピング
茶娘としての抱負
私の笑顔と菊川茶の美味しさで、幸せになっていただけるよう頑張ります。ぜひ菊川茶を飲んでください。



松下 紘未
HIROMI MATUSHITA

大好きな菊川市と深蒸し茶を
明るく元気にPRします

出身(自治会) 西嶺田
趣味・特技 旅行・ピアノ
茶娘としての抱負
私の大好きな地元菊川市と特産の深蒸し茶をより多くの人に知っていただけるよう、明るく元気に頑張ります。



池谷 愛
AI IKEYA

急須で淹れたお茶の
美味しさを笑顔でPRします

出身(自治会) 潮海寺
趣味・特技 映画鑑賞
茶娘としての抱負
たくさんの人に急須で淹れたお茶の美味しさを知ってもらえるよう、常に笑顔で精一杯頑張ります。



三浦 理沙
RISA MIURA

深蒸し菊川茶を
より多くの人にPRします

出身(自治会) 岳洋
趣味・特技 海外について調べたり、
行ったりすること
茶娘としての抱負
菊川の深蒸し茶を、より多くの人に飲んでいただけるようPRします。よろしくお願いします。



実りの秋を迎え、収穫を神に感謝する秋祭り。子どもからお年寄りまでが共に楽しみ、地域の絆を再確認しました。

秋祭り 2013

太鼓の音、笛の音色、威勢の良い掛け声が響き渡る

【小笠地域:10月12・13日、菊川地域:10月19・20日、牧之原地域:10月26・27日】





9/20 男女共同参画啓発の読み聞かせ

市内各園の年長児を対象に、市職員による男女共同参画を呼びかける読み聞かせが行われました。園児たちは「性別に関係なく、自分らしくあることの大切さ」を学びました。



9/27 「静岡の茶草場農法」実践者認定

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」実践者認定委員会が開かれ、市内では、倉沢の山本哲さんと堀延弘さんの2人が最高位(三つ葉)として認定されました。



9/28 市民協働実践塾で取材力をアップ

市民協働実践塾が町部地区センターで開かれました。「思いをカタチにする取材力と編集のワザ」がテーマ。写真撮影の方法や効果的な情報発信のポイントなどを学びました。



10/4 ホンダカーズ駿河による交通安全教室

西方保育園で開かれ、整備士の塚本康博さんと榛葉太一さんが、Honda考案のプログラムを使って、園児たちに分かりやすく交通ルールを伝えました。今後も、実施を希望する園で開催していく予定です。



表紙のこぼれ

総合学習の一環で米作りを学んでいる小笠北小5年生56人が10月3日、学校近くの田んぼで、5月に植えたもち米の稲を刈取りました。児童たちは青空の下、稲を刈ったり、稲の束をまとめたりする作業に汗を流しました。



秋空の下、丁寧にお茶摘み

『秋冷茶』お茶摘み体験ツアー

菊川市赤土原の茶園で9月21日、お茶摘み体験ツアーが開かれ、市外から家族連れなどおよそ50人が参加しました。菊川茶など農産物のPR、交流人口拡大などが目的。地元茶農家でつくる「赤土原緑茶会」の協力のもと、開催されました。

今回摘んだお茶は『秋冷茶』と呼ばれ、お茶の2度目の旬がきたもの。参加者は地元茶農家や茶娘から指導を受けながら手摘みを体験。手揉み体験やお茶のてんぷら試食、お茶試飲コーナーも設けられ、深蒸し菊川茶をたっぷり味わいました。



▲茶娘から茶摘みの指導を受ける参加者

月明かりの棚田で音楽鑑賞

せんがまちで初! お月見コンサート

上倉沢棚田「せんがまち」で9月21日、「お月見コンサート」が開かれました。総合学習で棚田について学んだ河城小6年生と静岡大学棚田研究会のコラボ企画。「多くの人に棚田の魅力を伝えたい」という共通の思いで準備が進められてきました。

当日は、地元オカリナ同好会や潮海寺祇園囃子保存会、静岡大学の学生バンドや和太鼓サークルなどが出演。多彩な音楽で会場を盛り上げました。河城小児童は、合唱や合奏、ダンスを披露したほか、手作り団子やガレットで来場者をもてなしました。



▲潮海寺祇園囃子保存会の演奏



▲河城小6年生による迫力あるダンス

野村流人材育成法を講演 労福協文化講演会を開催

日時 11月26日(火)

開場 午後6時 **開演** 午後6時30分

会場 掛川市生涯学習センター

演題 「野村流 人材の活かし方／育て方」

講師 野村^{かつや}克也氏(野球評論家)

参加料 無料

申込方法 下記へ申し込み、入場整理券を受け取ってください。

※1人あたり5枚まで

掛川市商工観光課、菊川市商工観光課、御前崎市商工観光課、小笠川勤労者サービスセンターほか

申・問 商工観光課商工観光係
(☎35-0937)

その他

平和への誓いを新たに 慰霊祭(菊川地域)を開催

本年度の戦没者慰霊祭を下記により執り行います。ご遺族で参加できる人は、ご出席ください。

日時 11月21日(木) 午前10時開式

会場 文化会館アエル 大ホール

※本年度は、仏式にて執り行います。

問 福祉課社会福祉係
(プラザけやき内☎37-1251)

河川の除草作業で発生した 刈草を無料で提供します

国土交通省浜松河川国道事務所では、菊川・牛淵川・丹野川・下小笠川で秋刈りの除草を行っています。

この除草で大量に発生した刈草を、畑などの敷き草やたい肥に活用していただける人に無料で提供します。詳細については下記へお問い合わせください。

期間 10月～12月

問 国土交通省浜松河川国道事務所平田出張所(☎73-2051)
浜松河川国道事務所河川管理課
(☎053-466-0118) HP <http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/>

児童扶養手当支給額変更のお知らせ

児童扶養手当は、ひとり親家庭の生活安定と自立を促進するための制度で、父子家庭の父、母子家庭の母、父母に代わって児童を養育している人などに支給します。

※支給対象については下記へお問い合わせください。

●10月から児童扶養手当の支給額が変更になりました

「児童扶養手当法による児童扶養手当の額等の改定の特例に関する法律」の規定により、児童扶養手当支給額が平成25年9月までの支給額より0.7%引き下げられました。

変更後の支給額は下記の通りです。

支給区分	平成25年9月まで		平成25年10月から
全部支給(月額)	4万1,430円	→	4万1,140円
一部支給(月額)	4万1,420～9,780円	→	4万1,130～9,710円
第2子加算	5,000円	→	5,000円
第3子加算	3,000円	→	3,000円

問 こどもみらい課子育て支援係(プラザけやき内☎35-0914)

世界農業遺産「静岡の茶草場農法」実践者の認定申請を受け付けます

「静岡の茶草場農法」の世界農業遺産認定に伴い、茶草場農法を実践している茶生産者(団体含む)を、自然環境や生物多様性の保全に貢献している生産者として認定する制度ができました。茶草場農法でお茶を生産し、この制度を活用しようと考えている人は、ぜひ申請してください。

詳細は下記へお問い合わせください。

申・問 茶業振興課茶業振興係(☎35-0944)

菊川市マスコットキャラクターの投票を実施します!

市では来年度の市制10周年を記念し、菊川市出身の漫画家、小山ゆう先生とスタッフのご協力をいただき、マスコットキャラクターの製作を進めています。イメージキャラクター実行委員会により選ばれた4点のイラストの中から、投票により市のマスコットキャラクターを決定します。

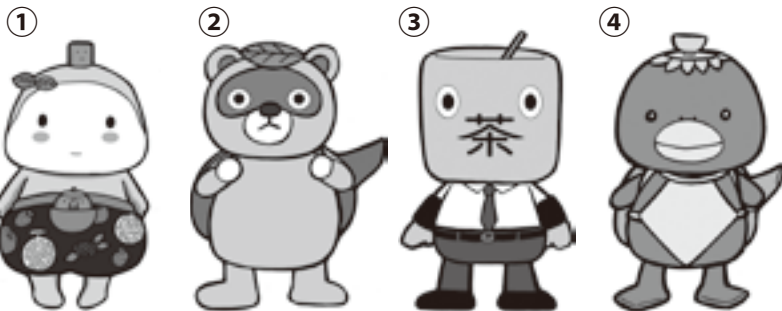
多くの皆さんに選んでいただくため、市役所や地区センターなどの公共機関に投票箱を設置します。ぜひ投票をお願いします。

投票期間 11月11日(月)～12月10日(火)

投票会場 市役所本庁、市役所小笠支所、市内地区センター13カ所、菊川文庫、小笠図書館、プラザけやき、市商工会館、小菊荘、文化会館アエル

●マスコットキャラクター候補

※決定後、市の特徴を生かしたデザイン等を追加することがあります。



問 商工観光課商工観光係(☎35-0936)

募集

菊川の医療を守るために 市立総合病院職員を募集

職種 助産師
資格 助産師資格を有する人
試験日 随時
選考方法 小論文および面接
申込方法 下記へ電話で申し込み
※職場見学希望する人もお気軽にご相談ください。
※詳細はHP (<http://www.kikugawa-hosp.jp>) をご覧ください。
問 市立総合病院総務課
(☎35-2130)

定時制で学んでみませんか 磐南定時制学校説明会を開催

日時 11月21日(木)、平成26年1月14日(火) 午後6時30分～8時30分
会場 磐田南高等学校正門右側
はぐま会館(磐田市見付3084)
対象 社会人、中学3年生、保護者など、どなたでも
持ち物 筆記用具
申込方法 参加希望の人は事前にご連絡ください(午後2時以降)。
申・問 県立磐田南高等学校定時制
(☎0538-32-7286)

講習受講者を募集します 狩猟免許試験の予備講習会

日時 平成26年1月11日(土)
午前9時50分～午後4時
会場 静岡労政会館ホール6階
(静岡市葵区黒金町5-1)
内容 法令や鳥獣の判別、わなや銃についての講義と実技
定員 300人(先着順)
申込期限 11月29日(金)
受講料 7,000円(教材費、弁当代を含む)
申・問 県猟友会事務局
(☎054-253-6427)

参加チームを募集します 第10回市民健康駅伝競走大会

日時 平成26年1月19日(日)
開会式 午前8時20分～
スタート 午前10時※小雨決行
コース スタート: 菊川運動公園
ゴール: 中央公民館(7区間16.4km)
部門 ●地区対抗の部(同一学校区内での編成)
●一般の部(市内在住、在勤、在学者またはその家族による編成)
チーム編成 監督1人、選手7人
※監督と選手の兼務可能
参加料 1チーム1,000円
申込期限 12月4日(水)

監督者会議

日時 平成26年1月10日(金)
午後7時30分～
会場 中央公民館2階視聴覚室
※各チームとも必ず1人以上出席
※当日、コース周辺は交通規制がかかります。ご協力をお願いします。
申・問 社会教育課スポーツ振興係
(中央公民館内☎73-1114、
(FAX)73-6863)

東海アクセス看護専門学校 平成26年度入学生を募集

募集人員 看護学科男女30人程度
修業年限 3年
受験資格 高等学校を卒業または平成26年3月に卒業見込みの者
出願期間 12月9日(月)～26日(木) 午後5時必着
試験日
学科試験: 平成26年1月16日(木)
面接試験: 平成26年1月17日(金)
合格発表 平成26年1月31日(金)
資料請求方法 窓口または郵送で請求ください。郵送での請求方法は、下記へ問い合わせください。
※詳細はHP (<http://www4.tokai.or.jp/axis-ns/>) をご覧ください。
申・問 東海アクセス看護専門学校
総務課入試担当(☎437-0033 袋井市上田町267番地の30 ☎0538-43-8111 (FAX)0538-43-8122)

催し

地域・家庭で備えを再確認 12月1日は地域防災の日

日時 12月1日(日) 午前9時～
※サイレン吹鳴
内容 ●各家庭・各個人
①わが家の地震対策をチェック!
②安全確認旗の活用
●各自主防災会での訓練
問 安全課防災係(☎35-0923)

菊川の街を歩こう!まめまめ マーケット& 2nd hand market

日時 11月24日(日)
午前9時30分～午後2時30分
会場 菊川駅南商店街を中心とした、赤レンガ倉庫、ポケットパーク、ふんすい広場、nimes前、mama's ShareShop Soramameの5会場
内容 ハンドメイド品、パンやお菓子などの販売、各種体験など
※スタンプラリーも開催予定
問 子育てサポーターぼれぼれ
(☎35-2781)

獅子ヶ鼻トレッキングコースの散策と 森から家ができるまでツアー

日時 11月30日(土)
午前8時45分 中遠総合庁舎集合
会場 獅子ヶ鼻トレッキングコース、森町内の作業所他
内容 トレッキングコース散策、製材所見学、ふりかえり他
対象 小学生以上
(中学生以下の参加は保護者同伴)
定員 40人(先着順・参加無料)
申込期限 11月18日(月)
申込方法 電話かFAX、郵便、メールで参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号を連絡
申・問 県中遠農林事務所森林整備課
(☎438-8558 磐田市見付3599-4 ☎0538-37-2301 (FAX)0538-37-2305 メールnourin-chuen-shinrin@pref.shizuoka.lg.jp)

11月は「計量強調月間」です。私たちの暮らしが安全で快適であるためには、計量器が正確に作動し、正しく使われることが重要です。取引や証明に使うはかりを所有する人は、県などが実施する2年に1回の定期検査を受けましょう。

問 商工観光課商工観光係(☎35-0937)



菊川の偉人・先人

其の五十六



1_数々の偉業を成し遂げた長坂矩男

2



3



不屈の信念のもと、
町発展に尽力

長坂 矩男

1

長坂矩男は、大正6年、加茂地区の名門長坂家に勝太郎の次男として生まれました。早稲田大学政経科を卒業後、大倉商事(株)へ入社。昭和16年には、関東軍へ入隊、中国大陸を転戦して20年に復員しました。その後しばらく農業に従事し、昭和27年から加茂村農業協会の専務取締役に就任しました。

昭和41年、矩男は菊川町長に当選。以後2期8年間にわたり、天賦の才能と不屈の信念により敏腕を振るい、数々の事業を実行しました。

就任早々の41年には、常備消防体制を発足。44年2月には消防署を設けて救急業務を行い、後に広域の小笠地区消防組合へと発展させました。郷土の繁栄に夢と希望を寄せた東名高速道路が44年2月に全面開通すると、これに連なる幹線道路を敷設し、道路網の整備を行いました。また、茶業振興にも力を注ぎ、牧之原台地の構造改善事業や小規模工場の茶農協への再編成、大規模な茶園整備を次々と実施。また、18の荒茶工場、菊川農協による茶冷蔵庫などが整備され、新しい茶業振興の

◎長坂 矩男 ながさかのりお

大正6年(1917年)-
平成4年(1992年)
加茂生まれ。

昭和41年(1966年)に
菊川町長に当選し、以
後2期8年間にわた
って菊川町発展の基
盤を確立する。

矩男は、県立小笠農業高校の横地地区への全面移転、その跡地に常葉学園短大の誘致をすることにも心血を注ぎました。いづれも移転および開校を実現に導き、地域の青少年に就学の場を提供したのである。また、当時断水騒ぎのあった上水道の整備のため、富田水源ポンプ場など諸施設を拡張整備し、給水能力日量1万トン確保したのも町長の英断によるものでした。その他、企業誘致や土地画整理による町づくりなどにも積極的に取り組みました。

町長退任後は、菊川農協理事、組合長として農協発展に尽力。また、専務理事として平成4年に発足した遠州夢咲農協の基礎づくりにも貢献しました。

持ち前の行動力と判断力で数々の事業を成し遂げ、町発展の基盤を築いた矩男の功績は図り知れません。

(出典・菊川町50周年記念誌みのり)

年長児さん全員集合

No.55

元気いっぱい、菊川の年長児さんをご紹介します



●菊川保育園 つき組



●みなみ保育園 おおぶた組

